

36th IACR annual conference に参加して



中田 佳世

大阪府立成人病センター
がん予防情報センター 企画調査課

この度、2014年6月にカナダの首都オタワで開催されました、第36回 国際がん登録協議会学術総会 (IACR) に初参加させていただきましたので、その様子をご報告させていただきます。今回の学術集会は、北米中央がん登録学会学術集会 (NAACCR) との同時開催で、170のがん登録室が参加していました。学会のテーマは“Capitalizing on Cancer Surveillance Data for Improved Cancer Control”となっており、がん登録データの利用についての各国の取り組みを聞くことができました。

初日は、厳かな雰囲気でのOpening Ceremonyが始まり、カナダの原住民の民族舞踊が披露され、国際学会という雰囲気を感しました。ワークショップでは、乳がんの検診データとがん登録データを利用した生存率の検討や、欧州26か国間でのタバコ対策と肺がんの罹患率との関係比較の発表がありました。プレナリーでは、当センターの伊藤ゆり研究員が、日本の6府県のがん登録データを使って各がんにおける治癒割合の推移を報告しました。

私は過去10年間小児がんの臨床医をしており、昨年度からがん登録の世界に入りました。会場で、がん登録のデータを使って小児ALLの施設別の生存率を発表されていた、南アフリカ共和国の小児がんの臨床医と出会いました。小児がんとがん登録というテーマで、海外の方と新たなつながりができたことも、貴重な経験と思っております。



リドー運河と国会議事堂

オタワは首都とは思えないくらい広々として自然が多く、とても美しい町で、おいしい地ビールがあります。毎晩、日本のがん登録室の方々と交流させていただいたことも、とてもいい思い出になりました。来年は10月にMumbaiで開催予定です。皆様、奮ってご参加ください!

第1回藤本伊三郎賞を 受賞して

伊藤 ゆり

大阪府立成人病センター
がん予防情報センター 疫学予防課

この度は、記念すべき第一回の藤本伊三郎賞を受賞させていただきました、誠にありがとうございます。修士課程在籍時の2002年頃からがん登録に関する研究に取り組み始め、10年以上が経ちました。初めて地域がん登録の研究班(津熊班)でかなり緊張して発表したときに、微笑みながら藤本伊三郎先生と花井彩先生が聞いて下さっていたのを今でも覚えています。大阪府立成人病センターに就職し、大阪府がん登録室の紹介ポスターを作る際、その歴史を紐解いていく中で、藤本先生のなされた数々の偉業を知りました。

今回、受賞の対象となった研究は平成25年度厚生労働科研の研究班におきまして、研究代表者をする機会をいただき、山形、宮城、福井、新潟、大阪、長崎の6府県の地域がん登録資料を用いて、がん患者さんや医療現場の皆様ががんの長期生存率の情報還元を行う研究の一部です。治癒モデルを用いて、部位別・性別・年齢階級別・進行度別に網羅的に分析し発表しました。治癒割合を推定するにあたり、モデルで仮定する分布が実際のデータに合わず、結果が得られない点で苦勞しました。会場でいただいた助言を元に、より洗練された統計手法を適用し、論文文化に向けて分析を進めています。



2003年のハワイでの国際がん登録学会以来、ポスターや口演で何度か発表しましたが、今回は人生初のPlenary Sessionでの発表でしたので、とても緊張しました。留学でお世話になりましたロンドン大学のColeman先生と同じSessionでしたので、リラックスして発表することができ、またよい思い出となりました。

最後に、これまで多大なるご指導を賜りました諸先生方と全国のがん登録室の皆様にご感謝申し上げます。本受賞に恥じぬよう、今後も地域がん登録資料を最新の統計手法を適用し、社会への還元が出来るよう、日々精進して参りたいと思います。